A 19

高齢者の自己変革要求－生活条件の違いとのかかわりから－

静岡大学　金田利子　○山口賢児

目的と方法　先回は、投影法の一つであるカナーの考案した「3つの願い」テストを活用し、高齢者の自己変革要求を子供との対比においてとらえ、高齢者も自己変革の要求が強く、人間は生涯発達することを構造的に明らかにした。今回本研究においては、高齢者のおかれている状況の違いによる自己変革要求について施設に入所している高齢者と在宅（デイサービス）の高齢者との間でとらえた。そして今後の自己変革要求を保障していく上での資料としていきたい。方法については3つの願いの回答を延べにして集計し体系化したが今回は要求の内容において頻度の高い言葉を抽出し、分類をこえて焦点化された要求をとらえる。そして1枚のアンケートの3つの願いの回答は、1人1人の内面を3つの要求から出したものであり相互に関連し成り立っている。よって3つの要求を1人の人間の人格から引き出された相互的類型としてとらえてゆくことにした。以上2つの方法において、施設、在宅という生活条件の比較の中で自己変革要求とその関連を明らかにする。

結果　施設の高齢者は、広狭の解釈も含め移動の要求が多い。要求の内容は他とのかかわりより自己に関するものが多い。また家に帰りたいという回答もあった。在宅の高齢者については、健康への要求が多い。健康が軸となり、友だち、家族など人とのかかわり、調和の要求も多い。以上のことから、生活条件と要求が関連していることがわかった。

このことから、真の自己変革要求と外面的なニーズを読みとって真の自己変革要求を保障するよう導いてゆきたい。